

ワンストップ輸出手続きの卸売市場開設と台湾の県産食品輸入解禁は千葉県にとって大きなチャンスだ。スマート化も進めつつ、この機会を捉えて県内農業、漁業の儲かる産業への転換を進めていきたい。

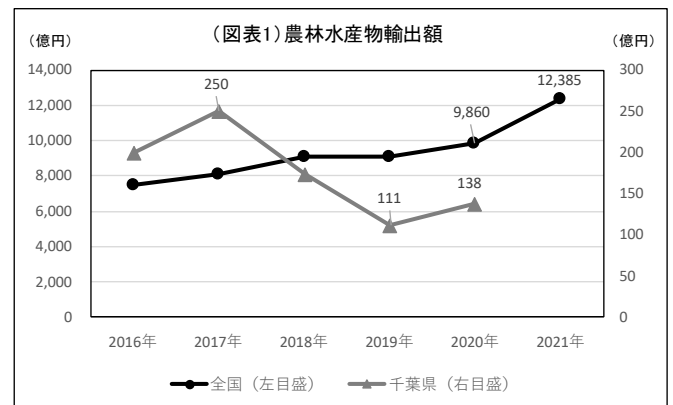
2021 年の全国農林水産物・食品輸出額は前年比 25.6% 増の 1 兆 2,385 億円となり、初めて 1 兆円を突破した(図表 1)。国は、30 年までに 5 兆円を目指しており、海外で評価される余地が大きい品目として、豚肉や鶏卵、いちごなどの 28 品目を重点品目に選定、品目毎の輸出目標を定めて支援を行っていく方針だ。

千葉県の農林水産物の輸出額をみると、20 年は 138 億円で前年比+24.5% 増となっているが、ピーク(17 年 250 億円)比では▲46.0% 減少している(図表 2)。健康志向(サバ缶ブームなど)で青魚の国内向け出荷ウエイトが近年上がったほか、中国向けの植木類が先方の検疫強化などで伸び悩んだことなどが影響した。この間、額が小さいが、サツマイモや梨などは、森田前知事の東南アジア向けトップセールスの効果から増加基調にある。

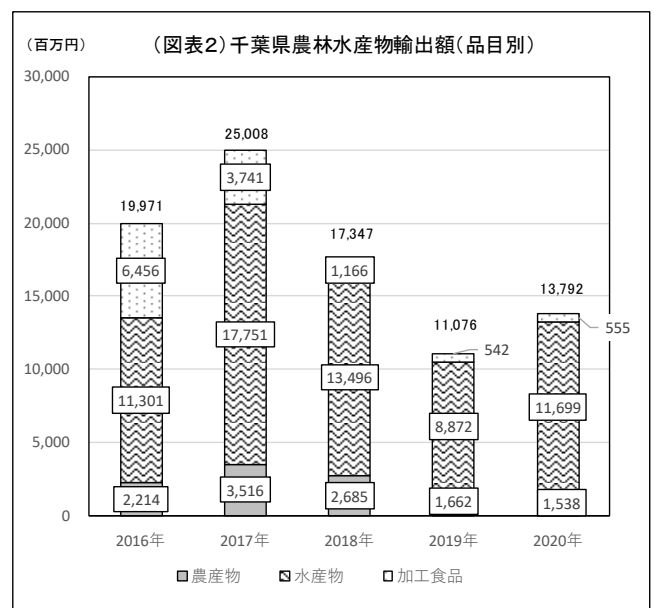
こうした中、1 月には成田空港の隣接地に、新成田市公設地方卸売市場がオープンした。新市場では、加工・パッキング、通関・検疫・輸出証明など、農水産物の輸出に必要な手続きを場内においてワンストップで完結できるようになり、より鮮度の高い農水産物が輸出可能となった。そして 2 月には、台湾が、2011 年の原発事故後に千葉県など 5 県に課してきた食品の輸入禁止措置を原則解除した。日本の農林水産物輸出額の 10% を占める台湾への輸出が可能になったことにより、県産品の輸出拡大へのチャンスが広がっている。

県では、輸出促進とともに担い手不足対策や生産性向上にも取り組んでいる。20 年 12 月に「スマート農業推進方針」を、昨年 12 月に「スマート水産業推進方針」を相次いで策定し、スマート化の取組・実証実験を始めている(図表 3)。実際に神埼町では、田植えに GPS 制御による自動運転トラクタを導入し省力化等の成果を挙げている。

千葉県の農業・漁業を持続的に発展させるためには、デジタル導入によるスマート化と輸出向けシフトが欠かせない。折しも、ワンストップ機能を備えた卸売市場開設と台湾の県産物輸入再開が決まったことは千葉県にとってビッグチャンスだ。この機会を活かして新たな販売チャネルの構築を積極的に行い、千葉県の農林水産業を「儲かる」産業へと転換していきたい。(長島)



(出所) 農林水産省「農林水産物・食品の輸出実績」、千葉県HP



(出所) 千葉県HP

(図表 3) 県内のスマート農業実施例

市町村	農作物	内容
神埼町	水稻	GPS制御による自動運転トラクタや直進キープ田植機の導入
大網白里市	きゅうり	ガススプリングを動力としたアシストスーツの導入によるつるし作業の実施
いすみ市	水稻	ドローンからの薬剤散布によるジャンボタニシの駆除
市川市	梨	梨運搬ロボ導入と気候から梨の病気リスクを測定できるアプリの実証実験

(出所) 各種資料よりちばぎん総合研究所が作成